

会議録

会議の名称	令和4年度第2回加東市総合教育会議
開催日時	令和4年12月9日（金）午後2時から午後3時50分まで
開催場所	社公民館 2階 研修室
議長の氏名（市長 岩根正）	
出席及び欠席委員の氏名	
<出席委員>	
・市長 岩根正	・教育長 藤原哲史
・教育委員 田中寿一、後藤純子、岸本恵一、別惣裕美子	
<欠席委員>	
なし	
説明のため出席した者の職氏名	
なし	
出席した事務局職員の氏名及びその職名	
・副市長 小林勝成	・教育振興部長 田中孝明
・こども未来部長 広西英二	・こども未来部参事兼学校教育課長 井上聡
・教育総務課長 前中公和	・学校給食センター所長 大久保めぐみ
・中央図書館副課長 藤田智架子	・こども教育課長 井澤彰子
・小中一貫教育推進室長 丸山真矢	・教育総務課副課長 北島恭子
・生涯学習課長 岸本孝司	・発達サポートセンター所長 友藤由貴子
・まちづくり政策部長 三木秀仁	・企画政策課長 下岡正裕
・企画政策課副課長 岸本純子	・企画政策課係長 村上計太
・企画政策課主事 岩崎友哉	
1 議題	
（1）第2期加東市教育大綱における令和5年度の取組内容について…資料1	
（2）教職員の働き方改革について…資料2	
2 会議の結果及び経過	
⇒別紙「令和4年度第2回加東市総合教育会議・会議の結果及び経過」のとおり	

(別紙) 令和4年度第2回加東市総合教育会議・会議の結果及び経過

発言者	会議の結果及び経過 / 発言内容
議長	<p>1 開会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 協議</p> <p>(1) 第2期加東市教育大綱における令和5年度の取組内容について まずは、内容について事務局から説明をお願いします。</p>
議長	<p style="text-align: center;">事務局から資料1に基づき説明</p> <p>第2期加東市教育大綱における令和5年度の取組内容について説明がありました。ご意見はありますでしょうか。</p>
委員	<p>様々な成果と課題についてご説明ありがとうございました。財政的な支援を含め、行政から学校現場に対する手厚い支援をしていただき非常に感謝しております。加東市は、他市町に先駆けて取り組んでいることがたくさんあります。小中一貫教育やデジタル教科書の導入など、先進的に取り組むということは大きな英断であったと思います。</p> <p>今後AIを活用した学習支援を家庭学習等に導入することで、個々に応じた家庭学習を行うことができるようになります。そうすることで、教師は本当に今寄り添わなければならない子どもたちに、より向き合うことができるのではないかと思いますので、今後とも先進的な取組の充実をお願いします。</p>
議長	<p>ありがとうございます。他にご意見はありますか。</p>
教育長	<p>貴重なご意見をいただきました。これまでは、同じように同じスピードで学んでいたことを、それぞれ個別に取り組むことで、できた時間を子どもたちが興味関心のあることに対し、自分で課題を持ち取り組む。そのようなことにもICTの教育は活用できるのではないかと考えております。</p> <p>それが、子どもたちの学びの個性化を生み、子どもたちの個性を伸ばすということに繋がっていきますので、様々な取組の中で、大事な柱の一つとして学習の中の個性化ということも踏まえ進めていきたいと思っております。</p>
議長	<p>AIを活用することで、個性やレベルに応じた練習問題が用意されるということは、非常にいいことだと思います。しかし、AIにすべて任せてしまうと、間違った処理をしてしまうケースもあるため、常にチェックする必要があります。</p> <p>AIを導入することについて、市もできるだけの財政的な支援を含めて考えたいと思うが、同時に先生方には、AIの使い方の工夫も大事なので、考えながらぜひ活用してほしいと思います。</p>
委員	<p>新型コロナウイルス感染症や物価の高騰など、大変な中、様々な工夫を重ね良い方向に改善されていると思います。トライやる・ウィークも、今年は子どもたちが一生懸命スタッフの方々と一緒に働いている姿を見ることができ、嬉しい気持ちになりました。</p> <p>加東市には、兵庫教育大学や発達サポートセンターがあり、恵まれていると思うので、今後の取組に活かしていただきたいと思っております。</p>

議長	<p>不登校について、学校に行きにくい子どもへの対応として、ソーシャルワーカーや、相談窓口など学校自体に行けない子どもが、過ごす場所はあるのでしょうか。</p> <p>ありがとうございます。質問に対して事務局から回答をお願いします。</p>
担当職員	<p>トライやる・ウィークについてお話しいたします。トライやる・ウィークは、3年ぶりに実施し、104の事業所に受け入れていただき、うち13の事業所が新規の受け入れでした。不登校の生徒17名中参加できたのが13名でした。</p> <p>ご質問のありました、不登校の児童生徒について、教室へ入りにくい児童生徒は、学校内の別室での指導や適応指導教室を利用できるようにしています。学校にいけない、家から出ることができない児童生徒に対しては、リモート学習を活用し、現在48名が自宅でリモート学習を受けています。</p>
教育長	<p>不登校については重要な問題です。リモート学習も一つの手段ですし、来年に向けて、適応教室は社武道館の1か所だけでしたが、滝野、東条とさらに広がっていき、子どもたちが近づくばかりではなく、学校や教師の方から近づいていくことも一つの方法ではないかと思えます。</p> <p>学校での居場所づくりなどの問題については、学校や教師から近づいていく必要があるということ念頭に置きながら進めていきたいと思えます。</p>
議長	<p>子どもは非常に大切だと考えていますので、1人も取りこぼしたくないと思っております。リモート学習ができるようになったことで、不登校対応の新しい手段が増えたと思っております。先生方には、ご苦勞をかけますが、1人でも距離が縮まることを期待しておりますので、頑張ってもらいたいと思えます。</p>
委員	<p>令和5年度に向けた取組というのが、令和4年度と比較し、積極的に取り組んでいただくような内容を盛り込んでいただいていると思っております。</p> <p>その中で、部活動の地域移行について、民間の方をお願いされますが、指導の方向性が学校と民間とで異なるなど支障が出てくると思うがどのように考えているのかお伺いします。</p>
担当職員	<p>部活動の地域移行については、令和5年度、6年度に検討委員会で協議し、令和7年度からスタートを考えています。すでに部活動指導員、外部指導者を入れ段階的に進めていますが、令和5年度、6年度についても外部指導員を増やし、移行に繋げていきたいと思えます。</p> <p>ただ令和7年度からすべてを移行できるとは思っていませんので、先生方の力を借りながら進めていこうと思っております。</p>
委員	<p>部活動の地域移行により、部活動が学校の活動と切り離されていくのではないかと思えます。教員を目指す人の中で、部活動の指導を行いたいと思っている人は一定数いると思えます。部活動が学校の教育と切り離されると、先生たちのやる気や意欲、モチベーションが削がれてしまう危険性があると思えます。そのようなことにならないための取組も必要ではないかと思えます。</p> <p>また、外部の専門的な指導者の人をお願いをすると、人件費が増加するのではないかと思えます。それにより、部費の増加など経済的負担が保護者の方にかかり、部活動が続けづらくなってしまいう子どもが出てきてしまう可能性が考えられます。そのようなにならないための工夫が必要だと思えます。</p> <p>不登校についてですが、不登校の生徒が0（ゼロ）になるということが一番良いと思えますが、数字的に0（ゼロ）になり不登校の子がいなくなった、良かつ</p>

<p>教育長</p>	<p>たという考えは少し危険だと思います。学校には来ているが、精神的には不登校の生徒と同じ状態に陥っている子どもが、中にはいると思います。その子どもたちをどのようにカバーしていくかということが大きな問題であると思います。</p> <p>幼児教育の充実についてですが、保育士さんの仕事はとても大変だと思います。保育士さんのモチベーションを保つには、仕事内容に見合った報酬が大事であり、モチベーションに直結すると思います。仕事内容に見合った報酬を貰うことで、仕事に対する責任や、モチベーションの維持につながると思うので、保育士さんたちにも責任を持ち子どもたちと向き合っていただきたいと思います。</p> <p>部活動の地域移行について、部活動指導を教員を目指す一つの動機としている方も関わることができるような方法を検討していきたいと思います。</p> <p>費用面について、現在の方法では、費用負担が必要になるという話も出てきておりますが、地域移行についての補助を国に対して要求するなど、保護者の方の負担が大きくなるように検討しなければならないと考えております。</p> <p>不登校につきまして、以前は、子どもたちの日記や、表情、内面を観察していましたが、それだけでは十分に把握ができないため、現在はアンケートや、年に2回子どもの学級での人間関係や、どのような思いがあるかなどを調査し、客観的に、その子の思いをつかむ調査をしております。</p> <p>保育士さんの報酬につきまして、やはり仕事内容に見合った対価や環境整備に努める必要があると思います。</p>
<p>議長</p>	<p>部活動の地域移行につきまして、今の時点でどのようにするのかを断言することはできませんが、方向性として、少なくとも保護者の方の負担は、現在と同程度で収まるような工夫はしたいと考えています。</p> <p>保育士さん等の給与については、どのようにするかは非常に難しい問題ではございますが、検討していく必要があると考えております。</p>
<p>委員</p>	<p>様々な事業に共通して言えますが、ボランティアは非常に大事だと思います。しかし、ボランティアを当てにした計画を進めることは控えた方がいいと思います。子どもや市民に充実した教育を、ということになると、ボランティアを当てにしないシステムの構築を今後お願いしたいと思います。</p> <p>図書館運営について、本当にコロナ禍で苦労されたと思います。</p> <p>コロナ禍での運営はとても難しいと思いますが、図書館ならではのぬくもりを大切に、3つの図書館を運営していただき感謝しています。図書館運営のさらなる充実をお願いします。</p> <p>学校給食について、給食が好きで、学校に来る子どもは多く、学校給食が不登校防止として大きな力になっていると思いますが、コロナ禍で孤食や黙食となり、楽しいはずの給食が、食べることだけに専念をしなればいけなかった状況から、一気に元通りとはいきませんが、給食ならではの食育を通した人間育成を大切にできる状態に、1日も早く戻ってほしいと思いますので、ぜひご尽力いただければと思っています。</p> <p>社会教育施設について、全国的に社会教育施設の利用者は減少傾向にあります。そのような中、社会教育施設や社会教育の充実は非常に大切だと思います。利用者の減少に歯止めをかけるということは難しいと思いますが、カリキュラムや制度を充実させるなどの努力をしていただければと思っています。</p>
<p>議長</p>	<p>ボランティアに頼った計画は良くないと思います。</p> <p>きちんとしたシステムを作り、それに付加してボランティアの方の活動を受けたいと思います。</p>

委員	<p>図書館について、本の貸出回数は人口4万人規模の市町村では全国1位となっております。これは加東市の自慢でもあります。今後も、皆様のお手元に必要とする本をお届けしたいと思います。</p> <p>社会教育施設の運営に関しては、様子を見ながら、しっかりと運営していきたいと思っております。</p> <p>子育てについて、児童館に行けば母親向けのセミナーや、毎日のように、子どものためのイベントなどが開催されていきました。また、同じ世代の子どもたちを集めたサークル活動も頻繁に行われており、本当に充実した子育てができ、本当に加東市に住んでいてよかったと感謝しています。</p> <p>給食にしても、当時の給食センターの方が講演に来られて、材料一つ一つにこだわった給食を作っているという事を聴き、子育てをするにはすごくいい環境だと思っています。</p> <p>図書館も非常に蔵書が多く、新しい本も入っているため、読みたい本が比較的、すぐに読めるという環境もありがたいと思っております。</p>
委員	<p>小中一貫校となり、懸念されていた通学路の問題も、検証中ではありますが、順調に進んでいると感じております。</p>
委員	<p>ヤングケアラーについて、子どもが、親や祖父母の世話をすることだけではなく、上の子が下の子の面倒を見ているということが、多いのではないかと思います。そのような現状の把握ができる体制を作っていただき、アフタースクールなど、子育て支援を充実していただけたらと思います。</p>
議長	<p>子どもたちが苦勞し、学校に行きにくいということは良くない状況なので、ヤングケアラーの方たちをフォローすることは非常に大事なことだと思います。そのような子どもたちをフォローできるように、学校で様子を見ながら、同時に福祉部局がフォローに入れるようにしていきたいと思っております。</p>
委員	<p>学校が小中一貫校に変わっていく中、校区が広がっていきます。校区が広がれば、今まで持っていたそれぞれの小学校区の地域性が薄まるのではないかと思います。それぞれの地域にはそれぞれの文化や習慣、文化財があります。それらを、加東市全体で共有できるような取組をしていただくことが私は大切であると思っております。その取組の一つが「かとう学」という副読本であると思っておりますが、さらなる充実をしていただければと思います。</p>
教育長	<p>様々なご意見ありがとうございます。ヤングケアラーの話がございましたが、学校では、子どもたちの忘れ物や、服装、学習状況、家庭の経済状況などを把握し、課題がある子どもたちについては福祉と学校との協議の場がございます。</p> <p>ヤングケアラーだけの問題だけではなく生活困窮世帯などに対しても、支援が漏れ落ちることがないように、全体として取り組む必要があると思っております。</p> <p>東条学園について、全国学力学習状況調査で、「学校へ行くのは楽しいと思いませんか？」という調査に対し、6年生は「楽しいと思った」が、令和3年に77.8%、令和4年には90.5%、9年生は令和3年が82.1%、令和4年には85%となっております。</p> <p>やはり子どもが、学校が楽しいと思ってくれることが何よりうれしく思っております。兵庫教育大学の先生からは、ステージ制による影響であると思うが、4年生がしっかりしているといったお話をいただいております。また、8年生9年生に、「第1・第2ステージの人の良い手本になりたいですか？」という、非常</p>

	<p>になりたい、ややなりたいたいということも含め、8年生では97.3%、9年生では98.4%と、子どもたちの見本になりたいという思いで過ごしてくれています。</p> <p>教科担任制については、小学校3年生から、教科によっては5・6年生から専門的な指導を行っています。始まったばかりで、手探りでやっている状態ではございますが、小中一貫教育の特色を活かしながら、進めております。</p> <p>小学校区の地域性については、昔から大切にされているものを、遠足等で活用するなど、教育活動の中に位置付け、それぞれの学校で大切にしてきた部分は、子どもたちと共有しながら、大切に育てていきたいと思っております。</p>
議長	<p>(2) 教職員の働き方改革について</p> <p>教職員の働き方改革について、事務局から説明をお願いします。</p> <p style="text-align: center;">事務局から資料2に基づき説明</p>
議長	<p>教職員の働き方改革について説明がありました。ご意見はありますでしょうか。</p>
委員	<p>ICT活用による働き方改革について、ICTの活用が中途半端になると必要以上に仕事が増えてしまう可能性があるのも、きちんと活用できるシステムを作ることが大事だと思います。</p> <p>また、来年度に向けた取組として、保護者連絡ツールの活用に期待しております。連絡ツールは、保護者、子ども、学校で共有できるシステムという認識でよろしいでしょうか。</p> <p>保護者、子ども、学校で共有できるのであれば、それぞれの思いも共有できるので、是非活用していただきたいと思っております。</p>
担当職員	<p>保護者、子ども、学校で共有できるかについては検討中でございます。</p> <p>これまでは、学校から保護者へ情報を一斉に送るのみでしたが、部活動ごとやクラス単位などグループ分けすることで、もう少し細かく保護者へ情報発信ができる様になると考えております。</p>
委員	<p>東条学園の職員室にあるモニターには予定が表示されており、他の先生と共有でき非常に便利だと思えました。やはり、必要な情報を必要な先生が確認できるシステムは必要だと思えました。また、音声メッセージ電話の設置により、保護者との時間外のやり取りが削減されたということは非常に良いことであると思っております。</p> <p>教職員の休憩時間について、先生方は、まとまった休憩時間を取ることが難しいと思っておりますが、先生方の休憩時間はどのようになっているのでしょうか。</p>
担当職員	<p>教職員の休憩時間について、学級担任は給食指導があるため、放課後に休憩をとり、学級担任以外の教職員は昼休みの時間に休憩をとるようにしています。</p>
委員	<p>様々な取組をし、先生方の負担は減っていると思っております。令和3年度教職員の超過勤務時間についての報告の中に、先生が帰宅してから、子どもに何らかのトラブルがあり、先生方が出勤する場合はカウントされているのでしょうか。</p>
担当職員	<p>帰宅後の対応についても超過勤務時間に含めております。</p>
委員	<p>細かなところまで様々な対策をとられており、しっかりと実現できるように進</p>

<p>担当職員</p>	<p>めていただきたいと思います。 保護者連絡ツールについて、スマートフォンのアプリなのでしょうか。</p> <p>保護者連絡ツールにつきましては、スマートフォンに対応したアプリを想定しています。</p>
<p>教育長</p>	<p>様々なご意見ありがとうございました。今、令和の日本型教育ということを言われていますが、日本の学校教育は国際的にも評価を受けています。日本の学校教育では、学習指導だけではなく、生徒指導の面でも重要な役割を担っています。授業だけではなく、児童生徒の様子を総合的にとらえ、人格的な面まで指導している。それが日本の学校教育の素晴らしいところだと思います。その良さの反面、教職員の担うべき点が多くなりますが、時間や業務を減らせば良いということではございません。先生方には、業務を削減する一方で、教師としての仕事にやりがいと誇りを持ってもらうという事が大切だと思います。今後、ICTの活用、人的な配置、部活動の地域移行などが、働き方改革の推進を進める上での大きな柱になると思います。</p>
<p>議長</p>	<p>働き方改革の関係で、他にご意見はございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>保護者連絡ツールを導入した場合は、どのような内容を発信するのか基準をしっかりと決めていただくようお願いいたします。</p>
<p>議長</p>	<p>子どもたちをしっかりと育てるためには、指導する先生が私は大事だと思います。働き方改革により、少しでも先生の負担を減らし、子どもたちに向き合う時間を取るというのは非常に大切だと思います。ただ、働き方改革を行う中で、何らかの混乱が生じるとは思いますが、よく相談していただき、全員で良い方向に向かって行きたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
	<p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>